

# 学校をつくろう！通信



## 第151号

### 学校の役割

その 128

学校法人雙星舎が3月31日に提出した「東表(あがりおもて)中学校」設置認可申請に対し、沖縄県知事から設置を不可とする9月30日付の回答がありました。東表中学校は現在、NPO法人珊瑚舎スコーレが運営している珊瑚舎スコーレ夜間中学校を学校教育法第1条に定められた私立学校(1条校)として運営するための措置です。卒業証書の発行や活動幅をさらに充実させるために提出した設置認可申請でした。この回答を受けて理事長は知事と私立学校審議会長に質問状を送りましたが、回答がないため、沖縄県議会議長に対して9月22日、陳情書を提出しました。以下は陳情書の内容です。

学校法人雙星舎は令和4年3月31日付で沖縄県知事に「珊瑚舎スコーレ東表(あがりおもて)中学校」設置認可申請書を提出しました。珊瑚舎スコーレ東表中学校は学齢期を過ぎた義務教育未修了者及び学び直しを希望する方々(形式卒業や沖縄県在住の外国籍の方々)を対象にした所謂夜間中学校です。その前身は平成16(2004)年4月にNPO法人珊瑚舎スコーレが那覇市に開設した自主夜間中学校(1条校とは別の民間が運営する夜間中学校)の「珊瑚舎スコーレ夜間中学校」です。月曜日から金曜日、学習指導要領に準拠したカリキュラムで一日4コマの授業を実施してきました。2004年度開校から2020年度までの入学者数190名、卒業した生徒数は95名、その内高校進学者は32名です。全国の自主夜間中学校にあって特筆すべき実績があると自負しています。令和3(2021)年からは校舎移転に伴い学校法人雙星舎所有の校舎を使い

NPO法人が運営していますが、さらに夜間中学校としての活動を充実させるためにNPO法人から学校法人の運営に切替えるため設置認可申請書を提出しました。文科省が各自治体に対し積極的に設置を進める夜間中学校の必要性の機運を沖縄県内で高め、公と私の協働で沖縄県内の義務教育未修了者の学ぶ権利を保障するための一翼を微力ながら担いたいと考えています。

珊瑚舎スコーレ東表中学校設置認可申請に対する令和4年9月30日付の沖縄県知事からの回答は「中学校設置基準(平成14年3月29日号外文部科学省令15号)8条を満たしておらず、妥当であると認められません。」というものでした。「誰一人取り残さない」と訴えた知事の選挙スローガンとかけ離れた回答でした。失望の念を禁じえません。

平成14年3月29日「規制改革推進3か年計画(改定)」が閣議決定されました。その閣議決定を受け「中学校設置基準(平成14年3月29日号外文部科学省令15号)8条」があります。規制改革推進3か年計画(改定)の13項目の内の4教育(5)には「小・中学校の設置基準の明確化と私立学校参入促進のための要件の緩和」として「小学校及び中学校の設置基準の明確化に当たっては、私立小学校及び私立中学校の設置促進の観点から、例えば、校舎や運動場の面積基準や、合築等ほかの用途との共同使用を認めるなど適切な要件を定める。また、各都道府県の私立小・中学校設置認可審査基準等及び学校法人の設立認可審査基準についても、その要件の適切な緩和を都道府県に対し促す。(抜粋)」としています。中学校設置基準8条では「校舎及び運動場の面

積は、法令に特別の定めがある場合を除き、別表に定める面積以上とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。2校舎及び運動場は、同一の敷地内又は隣接する位置に設けるものとする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上及び安全上支障がない場合は、その他の適当な位置にこれを設けることができる」と例外規定について述べられています。

文科省の夜間中学校担当部局、初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室に「地域の実態その他により特別の事情」がある場合について具体的な事例を尋ねたところ「校地面積が狭く校舎を基準通り建てられない場合などが考えられるが、その判断はあくまで都道府県がすることである」との回答でした。また、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」(通称 教育機会確保法)では夜間中学校の設置に向け各自治体の積極的な対応が求められています。沖縄県の義務教育未修了者数は国勢調査の結果からみてもわかる通り放置すべき問題ではないことは明白なことです。焦眉の急を要する問題です。

2010年の国勢調査によれば沖縄県の未就学者数(小学校に入学していないか、卒業していない県民)は人口1万人当たり47.0人(義務教育未修了者数はさらに多いと考えられます)でした。因みに2番目に多い鹿児島県の20.2人の2倍強、全国平均10.0人の5倍近い数字です。突出した数字です。10年後の2020年の国勢調査では調査方法が10年前と変り、最終学歴が小学校卒の項目が加えられ義務教育未修了数がより正確に分かるようになりました。沖縄県は人口

1万人当たり16.4人(珊瑚舎スコーレ夜間中学校試算)でした。10年間で激減しています。その理由は高齢のため、この10年の間にお亡くなりになった方々が

「人生の忘れ物を取りに来た。学校に通うことです。」

「死んだら卒業証書を棺桶に入れてあの世のお母さん、お父さんに私も学校卒業できたよと報告できる。」入学した生徒の言葉です。珊瑚舎スコーレ夜間中学校は開設以来、沖縄県に対し再三夜間中学校の充実を訴えてきました。それにも関わらず県教委の公立夜間中学校設置に関する報告書は夜間中学校の開設を事実上棚上げしたものです。「県の態度は取りようによっては時間が解決するのを待っているとしか考えられない」とも訴えました。その通りの結果になってしまったと受け取っています。残念です。生徒の気持ちを考えれば悔しいです。

今回の沖縄県知事の回答で最も問題なのは「中学校設置基準8条」は学齢期の13歳から15歳の子供たちが朝から夕方まで8時間以上を校内で過ごすことを前提にしたものであることです。夜間中学校の殆どの入学者は成人の就労者、或いは高齢者です。珊瑚舎スコーレ夜間中学校では年度により多少の違いはありますが入学者の平均年齢は70歳前後です。珊瑚舎スコーレでは昼間は学齢期の生徒たち、夜間は学齢期を過ぎた生徒たちが学んでいます。生徒の活動時間、活動動線、活動量は昼間と夜間とでは全く違います。「中学校設置基準8条」は就労者、高齢者の入学を考えて作られたものではありません。「中学校設置基準8条」を設置認可の判断の根拠とするのであれば、義務教育未修了者等の学習権の保障という観点からの8条の例外規定と種々の法令等を活かした形で判断しなくては

なりません。さらに、申請書に記載した校舎及び施設等は学校法人雙星舎が運営する高等専修学校珊瑚舎スコーレ高等部として設置認可を受けているものです。学校としての機能を備えた建築物・施設等なのです。県の担当部局による実態調査もなく(昼間に校舎視察をしたことは1度あります)、法律の文言通りの枠に収まらないものを不適当と判断する姿勢は県内の義務教育未修了者等に学びの場を提供するために行政としてできることをしようとする姿勢が感じられません。教育行政による義務教育未修了者等のさらなる放置はあってはならないことです。NPO 法人が運営する珊瑚舎スコーレ夜間中学校から学校法人が運営する珊瑚舎スコーレ東表中学校に運営主体と名称が変わることにより教育活動に支障を来すことはありません。逆にさらに充実するものです。今回の珊瑚舎スコーレ東表中学校設置認可に対する回答は「誰一人取り残さない」という知事という言葉との間に乖離があります。

珊瑚舎スコーレ東表中学校の開設が認可される前提で那覇市をはじめ県内各自治体に市町村教室の設置を呼び掛ける準備をしています。行政、各自治体との協働なくしては学校法人雙星舎が目指す「義務教育未修了者ゼロの沖縄県」は実現しません。珊瑚舎スコーレ東表中学校開設を不可とした知事の姿勢を質するための活発な議論を与野党の枠を超え行ってもらいたい。沖縄県の義務教育未修了者及び学び直しを求める沖縄県在住者の最低限の学びの保障の立場に立ち、公と私为一体となりその保障を具現化する道筋を一刻も早く築くことを県議会議員の皆様に強く訴えます。

陳情の具体的な要望として、以下の内容を県議会議長宛に提出しました。

沖縄県知事が珊瑚舎スコーレ東表中学校設置認可申請を「妥当であると認められません」との判断の根拠となっている「中学校設置基準8条」は学齢期のこどもを対象に定められたもので、学齢期を過ぎた就労者や高齢者を対象にした夜間中学校の設置基準としてそのまま適用することには疑義があります。中学校設置基準8条の「ただし…」以下の例外規定や関係諸法令等を十分に検討、判断するために珊瑚舎スコーレ東表中学校設置認可申請の再審査を求める決議をすることを県議会に要望します。

現在開会中の11月定例沖縄県議会において全会一致で採択され、知事が再審査の決断を下すことを強く願っております。(ほ)



## がじゅまる しんかめちゃー



(生徒・学生のコーナーです)

夏休み明けは生徒達が楽しみにしている「エコネット美(ちゅら)」のワークキャンプが待っています。毎年皆で名護市まで行っていたワークキャンプでしたが、今年は人数も大きくなっているため10月に「キッズ&初等部」の宿泊体験、11月は「中等部&高等部」のワークキャンプとなりました。それぞれの内容は違っても「山がんまり」のお手本になった「エコネット美」にて、自然の中で、身近にあるもので過ごす大切さを体験してきました。生徒達の感想です。

「エコネット美」

キッズスコーレ 城間 栄森

うみでいしを2つひろった。そして、いしをいしでといた。といたけどぜんぜんかわらなかった。コオロギはおいしくなかった。いろんなことがたのしかった。



「エコネット」

初等部 宜野座 丈嗣

まき拾いをしました。自分のうでぐらいのまきが一番いいと聞きました。さいしょは、軽いと思っていたけど、あんがい重かったです。竹やりゆうぼくは、思ったよりつるつるでした。つるつるだけど重かったです。海の色を見たら昔よりにごっていました。また行きたいです。つぎは10泊します。



「エコネットの感想」

中等部 澤野 天藍

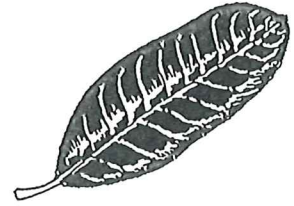
学校行事とか昔から嫌いで、エコネットも行きたくなかったし、めんどくさいなあとか思っていました。実際疲れたし大変だった。でもそれだけじゃなくて楽しい事もあったし、色々学べた気がした。それにみんながスマホとにらめっこしてない事がすごく新鮮で割とありだなと思いました。ご飯もすごく美味しくて久しぶりに炊飯器以外で炊いたお米を食べました。おいしかったです。

エコネットのいきの道\*ではなんだ割と大丈夫じゃんとか余裕こいてたら、帰りは足ガクガクでした。誰かが「帰りの方が足に負担かからないからそんな大変じゃないよ〜」とか言ってる人がいました。信じた自分がバカでした。

まあ色々あったけど楽しかったです。来年はもう同じメンバーで行けないのかと思うと寂しいです。でも来年には色んな新しい人が入ってくるんだと思うと楽しみです、やっぱり少し寂しいですね。

\*車をとめてエコネット美の入口まで約1.8\*の林道をみんなで歩きます。中には走って往復をするツワモノもいます。

ふくぎのふぁー



(講師・スタッフのコーナーです)

『山がんまりのヒヌカン』

玉木 浩一郎

初めて執筆させていただきます、やちむん講座を担当している玉木浩一郎と申します。私は社会福祉法人育成福祉会てだこ学園に勤務しています。てだこ学園は昭和54年4月に重度者30名、女子一般70名の定員100名で東風平の地に開所され、平成28年4月に、青い海、緑の丘を望む具志頭地区へ移転し現在に至ります。障害者支援施設として施設入所支援、生活介護、短期入所支援のサービスを提供しており、現在男性54名、女性22名の利用者様へ、46名の職員で支援にあたっています。プライベートでの私はというと、陶芸家の親父に影響を受けて、京都府立陶工高等技術専門校(愛称：京都陶芸大学校)へ入学し陶工としての基本技術を学び、やきもの作りをしています。この経験を活かし、てだこ学園では利用者様の陶芸活動や、一緒に参加された実習生の方や職員にも勧めて土を捏ねて楽しい時間を過ごしながら、地域交流拠点としての活用も企画しています。陶芸活動を楽しみながら、利用者様への理解と支援の輪を広げることを目的としていますので、興味をもたれた方はてだこ学園までご連絡ください。

さて、ここからは、去る8月に校外施設『山がんまり』で窯焼きした時の様子をお話しします。私を含めて穴窯で焼く事が初めての高等部1年の6名と初参加の高等部2年の1名は、高等部2年の5名(経験者)を頼りに火入れしましたが・・・火が付かないー！！という予期せぬ出来事に『もうこれまでか』

と、心の中で冷や汗を流しているところに、中等部のたつるさんが現れ「やってみようか」と一言、藁にもすがる思いの私は彼にすべてを託しました。小枝や細い薪を積み上げ燃え具合を見ながら、慣れた手つきで火ばさみも使い薪をくべていく。無理せず淡々と、優雅なその様に見入っていました。それ以降、私の中で彼の愛称は『火の神たつる』です。窯の方は薪が順調に燃え始めたところで、火の神たつるさんは帰宅してしまい(何度も引き止めましたが…笑)、それまでの動きを見て学んだ私たちは、薪をくべながら炎と作品と温度計とにらめっこ、真剣な表情で炎と対峙する生徒さんに、気持ちが高揚し少し箍が外れた私。汗も止まらぬ熱帯夜でしたが、校長の星野さんと弊社支援課長國吉からの、冷たいドリンクとおやつ差し入れをみんなでいただきクールダウン、さらに雨も降って心地よい。1200℃を目標にして約10時間で834℃まで上げることが出来たが、そこから思うように温度を上げることが出来ず、皆の気持ちを確認して20時過ぎに終了としました(私の力不足で申し訳ないです…)。それでも、悔しさよりやりきった爽快感の方が強く、皆さんの表情も最高に輝いて見え、良い経験が出来たと安心しました。これもひとえにアドバイスを頂いた、もとぶ南蛮窯様、ご協力頂いた珊瑚舎スコーレスタッフの皆様、職場の皆様のおかげだと感謝しております。

窯出しは夏休み明けの約一ヶ月後に行いました。自分の作品をとり上げ感慨深く見つめながら、もう夏に窯焼きはしたくないと深く心に刻んだのであります。次回の窯焼きは、来る2月に予定しています。生徒達には前期授業の最後に自己評価を書いてもらい、今後の活動に繋がるコメントをお返りする事で、自己を振り返り自分のテーマに向かって取り組んでほしいと考えます。上手下手の視点でなく精心性(心)をどの様に表現したのか、生まれてきた作品から何を感じたか、自身を知る上で『つくる』こととはとても有効な行動の一つだと思います。人の悲しみを自分の悲しみとして捉えること、こういった繊細な感覚がわからないと何か物をつくるにしても、何かを言葉で表現するにしても、デリカシーに欠けたり肝心な情報がぬけていたり雑なアウトプットになっ

てしまう。あふれる情報や言葉に惑わされず、自分の心で考えて行動することの重要性を今の時代において強く感じます。心の声に耳を傾けその言葉を大切にしてほしいのです。一度きりの人生(命)だから。

## スタッフ紹介



### 「がじゅまるハウス管理人です」

住田 景子

南城市津波古にこの建物は建っている。三階建てのコンクリートビルは50年前の建設時には近隣一番の大きな建物だったそうだ。珊瑚舎スコーレまで歩いて3分、天の浜とよばれる海辺まで1分、女子中高等部生5人男子高等部生5人が寝起きしている。今まで那覇にあった宿泊施設から引っ越して、新年度4月から入居、二階三階に各自のスペースを作り内部のコンクリート壁を塗装するなど大勢の方々の力で立ち上がったそうだ。

管理人を探しているよと聞いたのが3月末、一日考えて決心、身边を片付け10日に那覇空港着。ハウスの皆さんとの生活が始まった。(世間では寮母というが皆で共に新しい形を創っていこうと、シェアハウス管理人ということになったと聞いた)向かって左隣りは釣り具屋さん。年中おじさん達が寄ってゆんたく(おしゃべり)している。うちなーぐちだから言葉は分からないが私に向かってはヤマト言葉で話してくれる。小学校からの知り合いが多いそうで毎日仲良く大声で話していて楽しそう。13匹程の猫が朝晩餌をたっぷりもらってうろうろしている。目の前の馬天港で釣った魚も猫たちの餌。右隣は漁業組合の事務所。事務のおばさんがバナナやゴーヤを下さる。食べきれないからさー、と。こちらもたまにお菓子などお返し“ゆいまーる”あげたりもらった。ハーリーのときも大変お世話になっている組合長さんも釣り具屋の左隣に住んでいる。。毎日こうしたご近所さんが何かと我々のがじゅまるハウスを気にかけてくれている。

“さっき二人連れの女の人 came だよ”とか”あ

子はこの頃見ないねー“とか”あの子はスーパーでバイトしてるの？“とか。昔の田舎の近所付き合いみたいにたくさん目で見えてくれるのは、私には安全対策上も有りがたい。

総勢11人の夕食の副菜は“はれのち”食堂さんが届けてくれる。この方も珊瑚舎で学んだことのある方で様々な皆様のご縁に支えられているな、と改めて有り難く思う。

土日は当番の生徒が2つのグループに分かれて夕食を作ることになっている。始めはお米をとぐことにも手こずっていたが最近はいよいよ手際がよくなってきた。今まで春巻き、シチュー、キャラ弁、肉まん、やさしいラーメン、などを作ってきたがある時“宮澤賢治の食卓”を作ろうと言うことになった。雨にも負けず、、のなかにある”玄米とみそ汁と少しの野菜“というわけである。その晩はホッシー、えんともさんも加わってくれて心に残る夕餉になった。色鮮やか過ぎるアニメのキャラクターを弁当の上に作るキャラ弁の時は逃げ出した私だが、この夜の夕食の発想には嬉しくなった。

この夏は2か月半も外壁塗装のため足場が組まれ（台風予報や雨など塗装屋さんにはなかなか大変、はかどらない）雨水侵入や剥離もなおり美しい外観になった。夏場のコロナの嵐で共同生活は緊張を強いられたがなんとか乗り切った。実はちょっと経験してみたかった激しい台風は今夏はなかった。11月でもまだ海遊びをする人を見かける沖縄。潮風と湿気に私は慣れることができないが海の美しさと鮮やかな花々、人々の温かさはこの地の宝物だ。学び舎と宿泊場所が近すぎると言う緊張の無さゆえにか遅刻する人続出なのが目下の所一番の悩み。お願いだ、皆遅刻しないで！せっかくのここでの時間をもったいないよ。



## ～学び舎の一風景～

コロナ禍の合間をぬって、県外の中학생や高校生たちが修学旅行で珊瑚舎スコーレを訪れてくれました。生徒達との交流を持ちたいと修学旅行日程に組み入れ、珊瑚舎スコーレの「山がんまり」や校舎で交流会をしました。中等部、高等部それぞれがその場作りをしました。その時の様子をお伝えします

### 「南アルプス子ども村中学校交流会」

中等部 城間 喜子

シンカ会議の時間に南アルプス子ども村中学校との交流会で人が足りないって言って、何となく入った実行委員だったけど、だいぶ大変だった。もう交流会の日に近くて、それなのに委員の中でも把握できてない事もあって当日は朝からずっとお腹が痛かった。

時間になって南アルプス子ども村中学校の生徒達に来てびっくりした。自分と同年代の人達ってきいてたのに、全然上に見えて、もっと緊張した。何も考えられなくて、班と一緒に歩くのでいっぱいいっぱいになって周りが見えてなかった（グループ毎に校外施設の案内をした）。他の班はもう紹介し終わって他の3班の中でも話が始まってしまっていた。やっと4班揃ってお互いに学校紹介をした。

自分は時間のことで頭の中が埋めつくされて相手の学校紹介の内容がほぼ記憶に無い。もっときちんと聞いておけば良かったと思ってる。すごいお芝居を見たのを覚える。ずっと緊張してて肩が上がったまま記念写真を撮ってもらって、そこからすぐ月曜日が来て、一瞬でシンカ会議の時間になった。

そこで交流会の感想と反省を言った。すごい嫌だったし怖かったけど、そこでちゃんと交流会のことを思い出せて良かった。もしまた交流会の実行委員に入る機会があれば、もっと上手く色んなところを変えてきたら良いなって思う。緊張したけど楽しかったから、少しでも南アルプス子ども村中学校の人達も楽しかったって思ってくれてると嬉しい。



南アルプス子ども村中学校生徒達との交流会 山がんまりにて

ととも、生き物を殺さない生きていけない生き物です。また、殺し合わずに交渉できたとしても、お互いが完全に満足することなどできないので、みんなで少しずつ背負って行かないといけません。そうなった時、その負担は人権を侵してしまうのか？という流れで、気づくと珊瑚舎の「個の尊重と共同の調和」に辿り着いていました。頭だけで考えて分かることではありません。私は無宗派ですが、孔子や、キリスト、ブッダが唱えていたことの凄さを感じ始めました。彼らの経典をしっかりと学んでみたいです。良い意見交換になりました。

交流会は4時間もなかったけれど、仲良くなって一緒にお弁当を食べている人もいて、素敵でした。最後はバスを追いかけて、別れを惜しみました。

4日後のエコネット美での夜、夜の防砂林という素敵な環境の中で、交流会反省会をしました。準備不足、予備知識不足の他に、「大東学園生と珊瑚舎生との間には戦争、平和に対する認識に違いがあった。私たちの方が身近に考えていると思ったけど、その感覚のずれをうまく伝えられなかった。」という反省も出ました。

また反省点の1つ、学校紹介は交流会の度に行われますが、いつも準備がおろそかになってしまいます。そこで高等部で、学校紹介の基本の情報をまとめておくことにしました。授業一つ一つを振り返る機会にもなっています。完成したら、これからはより良い紹介ができるようになると思います。

当日もその前後でも、得ることの多い交流会でした。実行委員をできて、良かったです。



大東学園高校の生徒達とのグループトーク

## 「大東学園高校との交流会」

高等部 横川 天南

今回私は、東京の私立高校、大東学園との交流会の実行委員をやりました。実行委員会として2回、Zoomを使って大東学園の実行委員会と話し合い、会の内容や行程を決め、準備をして当日を迎えました。

交流会当日は、高校生同士、良い交流ができたと思います。しかし珊瑚舎の紹介はリハーサルが足りなかったこともあり、あまりよい発表にはなりません。大東学園からも学校紹介があって、大東学園の特徴的な授業について興味深かったです。初対面の緊張をほぐすため、言葉を使わずに誕生日順に並ぶという、楽しいミニゲームもしました。

大東学園の皆さんは、平和について学ぶために沖縄を訪れたそうです。テーマトークで、「みんなが考える米軍基地」(戦争はなぜいけないのか)をテーマに、意見交換をしました。

米軍基地について、私はまだ自分の意見が分かりませんでした。あまり近くに基地がないので基地近くの高校生としていえる意見もなく、珊瑚舎でこれまで学んできたことなど話しました。沖縄と米軍基地について、もっと学びたい、学ぶべきだと思う機会になりました。「戦争はなぜいけないのか」というテーマでは、さまざまな意見が出ました。その中の「生き物の命を奪い、苦痛を与えることは何にせよいけない」という意見についてです。確かにそうだと思います。経済の為でも、文化の為でも、家族の為でも、命を苦しめる戦争はいけません。しかし私たちはも

## ～子どもがんまりだより～



### 「親子で楽しい時間を過ごせました」

豊田 絵里奈（9月25日参加保護者）

今回、小学校1年生の長男と4歳の次男との参加させて頂きました。珊瑚舎のページで「がんまり教室」を知り、すぐに参加したい！と思い申し込みました。普段、子どもたちは公園で遊ぶことはありませんが、本当の自然の中で自由気ままに遊べるような機会が少なく、親子にとって貴重な体験になると思っていました。しかし二人はがんまりの話をしてピンときていないようで微妙な反応（笑）「家で動画を見ているほうがいい」と、当日まで嫌々準備していました。

現地に着くと「虫がいてイヤだ、蚊にさされた、帰りたい」とぼやいていましたが始まってしまえば、どんどん顔が生き生きしていくのが分かりました。パチンコの玉探しも、私そっちのけであっちこっち探しまわり、高いハシゴも難なく登って木の枝からゲット！手にとったときの嬉しそうな顔は普段の生活ではなかなか見られない表情でした。親としては危なくないかな、やりすぎかな、ハラハラする場面はありましたがスタッフの方々は厳しく制限するのではなく、子どもの気持ちややりたいことを尊重しながら一緒に安全に楽しめるように工夫してくれているのがさすがだなあ、と思いました。

ゲームも楽しかったようですが、最後に珊瑚舎のお兄ちゃんが周辺の探検に連れて行ってくれたこともすごく楽しかったようです。朝はあんなに嫌がっていたのに、帰りは「絶対帰らない！」とストライキを起こす始末（笑）長男に感想を聞いてみると「みんなが帰ったあとの、パチンコ遊びでバナナの葉っぱを攻撃するのが一番楽しかった。玉拾いも楽しかった。後でパチンコ公園で遊んだけど、壊れて

しまつて悲しいからできれば次のがんまりでまた作りたい！」そうです。

私にとっても子どもたちと忘れられない、楽しい時間を過ごせました。12月にもまた参加予定なので、親子ともどもとても楽しみにしています。

### ★ ★ 事務局便り ★ ★

★10月、11月は続けて県外から沖縄へ修学旅行に来た学生たちが、珊瑚舎スコーレの生徒達との交流を考えて連絡をくれました。中等部、高等部それぞれの実行委員が、相手校とのオンラインミーティングを通して交流会の内容作りをしていました。終わった後のシンカ会議（ホームルーム）で、出来なかったことや残念だったことなど上がったものの、皆良い時間だったと感じたようです。

★12月17日に行われる「とんじーあしびー」（お楽しみパーティー）に向けて準備中です。テーマは学校の目の前にある「天ぬ浜」の1000年後の姿と落とし物。会場をこのテーマに沿った飾り付けで仕上げようと工夫を凝らしています。昼の生徒は勿論夜間中学、保護者、事務局の面々はそれぞれの出し物をひそかに特訓。さあ本番まで2日です。

### ★ ★ ★

●今年度(10月1日～11月30日)寄付・カンパを頂いた方々  
石野裕子市野寿子大城喜春小渡律子鹿糠文子北上田登久子城間あずき当山幸江長嶺由紀子真津昭夫矢崎智章山田道子湯本貴和與儀勝子与那覇晴海石田みどり竹内新仲村宮子横山真弓萩原真美照本祥敬岩月住江三枝菜美子所扶久代手塚賢至大城博三浦幸子式部恵子森口美千恵丹羽雅代家門収一上田秀一盛口佳子橋川由美子助川寿美子武田富美子辰巳万里子安里桂子安田直美下地孝法岸暁美城間栄順村上呂理瀬底純子中島公子花城和子西原邦男野村佳雄松茂良米子名嘉光夫泉恵子新倉美佐子里見章子内田俊夫原真弓武義和熊本大学社会教育有志奥本さつみ太田武二株)象設計集団儀間小夜子秋山けんし竹内靖人金田稔

発行者：珊瑚舎スコーレ

事務局 遠藤知子 樋口佳子

住所：〒901-1414 南城市佐敷津波古 509-4

Tel：098-975-7781 Fax：098-975-7783

Mail：info@sangosya.com

URL：https://sangosya.com